



トラブルシューティング トレースの設定

[Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウでは、トラブルシューティング トレースの事前設定値を設定する対象のサービスを選択できます。この章では、Cisco Unified Serviceability に存在するサービスに対して、トラブルシューティング トレースを設定およびリセットする方法について説明します。



(注) トラブルシューティング トレースを長時間イネーブルにすると、トレース ファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスに影響することがあります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Serviceability で、[Trace] > [Troubleshooting Trace Settings] を選択します。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、トラブルシューティング トレースを設定する対象のサーバを選択して、[Go] をクリックします。



(注) サービスのリストが表示されます。サーバでアクティブになっていないサービスは、N/A と表示されます。

ステップ 3 次のいずれかのタスクを実行します。

- [Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択したサーバについて特定のサービスを指定するには、[Services] ペイン (たとえば [Database and Admin Services]、[Performance and Monitoring Services]、[Backup and Restore Services]) でサービスのチェックボックスをオンにします。
- [Check All Services] チェックボックスをオンにします。この操作により、[Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択した現行サーバ上のサービスのチェックボックスは、すべて自動的にオンになります。

ステップ 4 [Save] ボタンをクリックします。

■ 関連項目

ステップ 5 1 つまたは複数のサービスのトラブルシューティング トレースを設定した後、元のトレース設定に復元することができます。元のトレース設定に復元する場合は、**[Reset Troubleshooting Traces]** ボタンをクリックします。

リセット ボタンをクリックすると、ウィンドウは最新の状態に更新され、サービスのチェックボックスはオフになります。

追加情報

P.8-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [トレースの設定 \(P.7-1\)](#)
- [トレースについて \(P.6-1\)](#)